

【重点対象4】 被災者

第2回 仙台市自殺対策連絡協議会	
資料2-4別添資料	令和2年3月24日
仙台市精神保健福祉総合センター 仙台市障害者支援課	震災後心のケア支援

取組みの名称 震災後心のケア支援 (No. 101)

## 取組みの実施状況

### 1. 相談支援

#### 1) 個別支援【方向性3：対象に応じた支援】

平成30年度の各区・支所との協働訪問件数は表のとおりで、その延べ件数自体は年々減少しているものの、支援が必要な被災者は、高齢者から中高年単身者、障害者、ひとり親など多様であり、多部署が連携し効果的な支援を展開することが必要となっている。

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
協働訪問(延支援者数)	414	275	456	436	281	290	260
事例検討・レビュー	-	54	67	69	47	40	30

#### 2) 集団支援【方向性1：ひとり一人の気づきと見守りの推進】

複合的な問題を抱える被災者を支える地域づくりも、被災からの立ち直りや新たなコミュニティに再適応していくためには重要である。特に、復興公営住宅は高齢化率が非常に高く、地域力の低下が明確になっているため、地域づくりの視点を持ち、住民同士のつながり、関係づくり構築を主眼に、各区・支所や社会福祉協議会、町内会等の関係機関と連携した運動教室やサロンなどを開催している。そのような住民同士のつながりの中から、ストレスを抱えた住民が各区・支所での支援につながった事例もあった。

### 2. 人材育成【方向性2：人材の確保と育成】

#### 1) 震災後心のケア従事者研修会：

対象：各区・支所で震災後心のケアに従事している職員

開催時期：平成31年4月、令和元年5・7・9・11月、2年1・3月の計7回。

テーマ：「被災者の心のケアについての概要」や、「新たな要支援に支援を届けるための工夫」、「ハイリスク高齢者への支援」、「被災地域における集団支援」、「復興公営住宅内での孤立防止の取組み」などについて、講義やグループディスカッションを通して、従事職員の資質向上及び職員同士のエンパワーメントの促進を図った。

#### 2) 災害時メンタルヘルス研修会：

対象：市内関係機関の専門職（60名参加）

日時：令和2年1月8日（水）

内容：「災害復興期のこころのケア-その戦略と創意工夫-」兵庫県こころのケアセンター所長 加藤寛 氏 阪神淡路大震災の被災地である兵庫県における復興期の長期的支援の方策について学んだ。